

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	小城市立晴田小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上等すべての取組について、共通して実践していく内容について全職員で共通理解し、組織力を生かして取り組むことができた。 ・働き方改革、業務改善を念頭に置き、学校行事や校時程等を見直し、職員個々の意識高揚を図りながら、引き続き超過勤務削減に努める。 ・青少年及び育友会等と連携をより一層深めながら、より具体的な社会に開かれた教育課程の実現に努める。
2 学校教育目標	「心晴れ晴れ たくましく 学び伸びゆく 晴田っ子」の育成 ～地域に根ざし、夢に向かおう、晴田っ子！～
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども達の学力向上については、12月調査の分析を基に、今後取り組んでいくことを全職員で共通理解し、児童一人一人の実態に応じた取組みを進めていく。 ○働き方改革、業務改善を念頭に置き、学校行事や校時程等を見直し、職員個々の意識高揚を図りながら、引き続き超過勤務削減に努める。 ○青少年及び育友会等と連携を深めながら、より具体的な社会に開かれた教育課程の実現に努める。

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果
				●学力の向上	●全職員による共通理解と組織的な共通実践
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●子ども一人一人に寄り添い、いじめの未然防止、早期発見・早期解決に努め、学校のいじめ防止対策への保護者の満足度を90%以上とする。	・「月のころ」アンケート、年2回の教育相談週間で一人ひとりの子どもをしっかり把握し、問題には即時対応する。 ・ケース会議を随時開催し、その内容を全職員で共有し、学校全体で共通した取り組みを行う。	A	・子ども一人一人に寄り添い、いじめの早期発見・早期解決に努め、学校のいじめ防止対策への保護者の満足度は90%を超え、達成できた。 ・アンケートや教育相談を実施し、児童の心の安定に努めた。また、不安感の強い児童に対しては、SCやSSWとの連携、ケース会議の開催など情報共有をしながら学校全体で臨機応変に対応することができた。 ・月のころやいじめアンケートを活用し、いじめの前兆となる事案に即対応した。
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「自らの夢や目標の実現に向けて、諦めず努力を続けることができる」と回答する児童を80%以上にする。	・全教育活動にキャリア教育の視点を取り入れ、夢や目標について児童が主体的に考える時間を設定する。 ・キャリアパスポートの効果的な活用 ・心理学の知見(目標の種類、成長型マインドセット、グリット等)を生かした講話の実践	A	・「自分の夢や目標の実現に向けて、努力をし続けている」に肯定的な回答をした児童の割合85% ・夢や目標について心理学の知見を生かした講話実践(2回)に対し、肯定的な回答をした5年生児童の割合100% ・キャリアパスポート等を活用し、効果的なキャリア教育ができていると感じている職員が約6割
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	③「朝食を毎日食べている」児童について、市の数値目標(95%)を達成する。	・年2回の晴田っ子アンケートで把握した朝食喫食率をもとに、手立てをとりながら学級指導や家庭科等で食の大切さを考えさせる。	A	「毎日食べている」「だいたい食べている」と回答した児童は97%。また、6月のアンケートでは「ほとんど食べない」と回答した児童が0%だったが、12月では1%。朝食の大切さや食への意識を高めていくために、各家庭への協力をお願いしながら、さらなる取組みが必要。
	●さらなる業務改善及び教職員の働き方改革	●教育委員会方針に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日(火・金曜日最大18時)の遵守 ・業務改善策(「晴田小 働き方の6ヶ条」)を全職員でブラッシュアップし実践する。 ・早期周知による業務の効率的な実施 ・前月の時間外在校時間の実績の省察・改善の実践	B	・全職員の時間外勤務時間の平均42.3時間 ・時間外勤務時間1ヶ月平均45時間以内を遵守できている職員の割合56% ・「週2日設定している18時までには退勤する」に肯定的な回答をした職員の割合約50% ・データや紙媒体による早期周知は100%達成

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目					
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果
				○学習習慣づくり(学びづくり部)	○全職員による「学びの6か条」の共通理解と共通実践
○人権が尊重される集団作り(自分づくり部)	○人権が尊重される集団作りを図り、自己肯定感を高める取組み	○子ども一人一人に寄り添い、「学校は楽しい」と答える児童を85%以上にする。	・人権教室や人権学習において、深く考えさせたり多様な考えに気づかせたりする。 ・毎月の生活目標を帰りの会で振り返り、規範意識を高める。 ・児童支援会議やケース会を通し、配慮が必要な児童の理解を深めるとともに、インシデントプロセス法を用いたミニ研修会を行い支援の充実を図る。	B	・「学校評価アンケート」では、「学校が楽しい」と答えた児童が79%で目標をやや下回った。否定的な回答をした21%の児童を、引き続き重点的に支援していきたい。 ・毎月初めの全校集会で、月目標を話し、生活目標を意識して行動することができた。また、生徒指導協議会では、目標の達成状況を確認し、学校全体で共通理解を図った。 ・児童支援会議では、昨年度同様インシデントプロセス法を用いて、児童理解と支援の検討を行い、支援の充実を図ることができた。 ・中間評価と最終評価のアンケートの採り方については、今後検討する必要がある。
○自主的・実践的な態度づくり(仲間づくり部)	○より豊かで安全な集団生活となるように、出番・役割・ふり返り・称賛を心がけ、積極的に実践しようとする態度を培う取組み	○学級活動や児童会活動で、肯定的な回答ができた児童を85%以上にする。 ○「徒歩登校」について、肯定的な回答をした児童90%以上にする。	・特別活動において出番・役割・承認(ふり返り・称賛)を保障する。 ・感想交流や振り返りカードで、自分や友達の良さを見つけさせ、活動意欲を高める。 ・毎月調査を行い、徒歩登校に努めている学年を称賛し、意識の高揚を図る。	A	・学級活動において、係活動では、見直し(計画)・実践・ふり返りを見える化し、学年に応じて、子ども達の自治活動を促す手立てを取ったことで、学級活動についても肯定的な回答をする児童が特別活動同様、85%を超えることができた。 ・アンケートによる児童の声や登校の様子を紹介し、啓発を行った。意識調査アンケートの結果は、肯定的な回答をしている児童は90%を超え、保護者も89%と意識が高まった。「なかま部だより」を配布後の様子は、学校までの送迎が明らかに減少してきた。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育	
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての項目について、家庭・地域(育友会・青少年)と連携を図りつつ、学校内部においても組織的・継続的な実践ができた。 ・「適切な成果指標の設定」と「アンケート内容・実施方法」が課題。 ・「削減する仕事」、「協力することで時間を短くできる仕事」、「やり方を変えることで成果の質を上げられる仕事」を考え出し、実践する。